

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2014. 9. 10◆◆◆

コンプライアンスへの取組み

このたび四国地方整備局次長兼総務部長を拝命しました吉田です。着任日は7月8日。台風8号が接近しつつありました。挨拶もそこそこに防災服に着替え、災害対策本部の置かれた庁舎内のオペレーションルームに着席することとなりました。災害から国民の生命を守る国土交通省の第一線に立たされたという感慨を持ち、大いに緊張しました。

四国地方整備局は全国に八つある地方整備局の中でもっとも小さい整備局であるとはいえ、それでも大組織ではあるので、局長を補佐してしっかり組織を支える役割を果たして参りたいと思います。1300人の整備局職員が誇りを持って地域作りに携われるよう、職場環境を整えることが第一ですが、引き続いて行われる定数削減、補正予算の執行、南海トラフ地震対策等、いよいよ減らされる人数でますます増えていく仕事をこなしていく必要があります。現場は大変ですが、一方では住民の皆さんの期待に応えて着実に整備を進めて行かなければなりません。そのために少しでも状況を改善していけるよう努めたいと思います。

少し前に起こった官製談合事件は衝撃的なものでした。四国整備局の現在の組織にもその記憶が残っているのを感じます。組織に残っている事件の記憶を、国民の負託と信頼に応える新しい整備局の姿へと変わっていくための契機にしていく必要があります。現時点においても既にコンプライアンス徹底のための取組が重点的に行われていますが、あまりに繰り返行われているためか、既にマンネリ化への危険も指摘されています。ルールを細かく定めてパターンでやってはいけないことを識別できるようにすることは効果的であることは否定できません。ただ、コンプライアンス違反事案は、社会一般の規範自体が大きく変化していく中で、従来の仕事のやり方について従ってしまったというところで発生する場合も多いと思います。社会の常識が変化する中で、自分の行動と社会常識とを対照して常にチェックしていくことが重要です。そのためには、常に考える姿勢を持ち続ける必要があります。答はありませんが、どうしたらマンネリを打破し、常に新しい目でコンプライアンスを考える組織風土を作っていくか考えていきたいと思えます。

四国地方整備局次長兼総務部長

吉田 恭

■平成26年度 四国企業防災戦略トップセミナー 大規模災害からの企業の早期復旧・復興に向けて

【企画部 防災課】

- ・開催日時 平成26年8月20日(水) 14:30～17:15
- ・場 所 サポートホール高松 第1小ホール
- ・出席者 四国内の企業、行政職員 計166名
- ・主催 経済産業省 四国経済産業局
国土交通省 四国地方整備局

・目的

四国には海外や国内の特定分野においてトップシェアや世界レベルの特殊な技術を持つ企業が100社を超える等、全国に誇れるオンリーワン企業が多く存在します。一方で、多くの企業が南海トラフ巨大地震などの大規模災害により被災した場合には、四国はもとより日本経済・世界経済に多大な影響を及ぼすことが懸念されます。

そこで、今回、四国地方で初の試みとして、東日本大震災により大きな被害を受けながらも、早期に立ち直った日本製紙(株)石巻工場、常盤興産(株)の2社より、事業を継続していくための課題や対策についてご講演いただき、四国の企業との意見交換を行いました。

- 1) 東日本大震災からの復興 ～日本製紙(株)石巻工場～
ページ(1)

日本製紙(株)顧問(前)常務執行役員石巻工場長 兼 岩沼工場長 藤崎 夏夫 氏

復興にあたっては「待っていても助けは来ない」の認識で、「あらゆる手段」を使って地域の復興に奔走しました。地元ラジオを通じた復興宣言、復旧・復興推進本部長、宮城県知事、石巻市長への訪問を行い、5月には巨大鯉のぼりの掲揚を行う等、工場復興の意思を積極的に地域に伝え、復興の道のりを歩みました。

震災を振り返って大きく次の4点の教訓を得ました。

1. 災害訓練の実施・啓蒙(勤務者の死傷者ゼロ)
2. 迅速なトップの決断(本部の早期設置等)
3. グループ丸となった復興活動(支援物資、人材の早期派遣等)
4. ステークホルダーとの信頼関係に基づく救援活動(義援金・物資等)

2) スパリゾートハワイアンズの挑戦<炭鉱から観光へ:復興の歩み>

常磐興産(株)顧問(元)取締役企画室長 坂本 征夫 氏

常磐興産は、石炭から石油へという「エネルギー革命」、東日本大震災での「原発事故」という国のエネルギー政策の転換により2度にわたり翻弄されてきました。東日本大震災でも度重なる苦境に対して1名の社員解雇もなく、復興を実現できました。

復興の要因は様々ありますが、地域社会と一体化し、手作りをモットーにした商品づくり、ピンチをチャンスに変えようとする組織文化と人材育成が鍵となったと考えます。最終的には現場の生きた“人間の力”が企業継続の源であり、そのための「人材育成」が極めて重要であると感じています。

■建設フェアの開催について

【企画部 企画課】

来る平成26年10月10日(金)、11日(土)に高松市サンポートの高松シンボルタワー等において、『くらしと技術の建設フェア四国2014 in高松with土木学会100周年』が開催されます。

このイベントは「建設産業及び社会資本整備への一般理解の醸成とその魅力発信」を目的として、2年に1度四国建設広報協議会(事務局:企画部企画課)主催により行うものです(前回は2012年に実施)。

今回のブース出展は前回は上回る85団体・97ブースで展開します(前回は59団体・64ブース)。各ブースにおいては、各社自慢の最新テクノロジーによる建設技術・防災技術の展示・実演が行われるほか、「高専どぼじよと工作教室」や「アニメ構造物を見積もる講演会」、「工事記録上映」、「徳島北高校防災教室」、「工事用車両等展示(高所作業車乗車体験、土石流3Dシアター、降雨体験装置)」、「ちびっ子広場(消波ブロック模型、ぬり絵、マンガ)」など、一般の来場者も建設産業に興味を持ってもらえるようなイベントを多数実施します。フェアの入場料は無料ですので、皆様ふるってご来場下さい。

なお、土木学会100周年記念講演も同時開催いたします。

■国営讃岐まんのう公園「コスモスフェスタ」について

【香川河川国道事務所 公園課】

国営讃岐まんのう公園では、毎年恒例の『コスモスフェスタ』を9月13日(土)~11月3日(月・祝)まで開催します。

9月中旬から「花巡りの丘」の広大な花壇にオレンジや黄色の「キバナコスモス」が見頃を迎えるほか、10月上旬から「花竜の道」、「青竜の谷」で、赤・ピンク・白の「センセーション」や絞り咲きの「あかつぎ」が見頃に入ります。10月中旬には筒状の花弁が特徴的な「シーシェル」や黄色の「イエローキャンパス」が見頃を迎え、期間中、園内全体で45万株のコスモスが楽しめます。

また、10月18日(土)・19日(日)の2日間は、四国の道の駅の名物アイスクリームが勢揃いする「四国道の駅アイスクリーム選手権」を開催します。さらに19日(日)は、ブルドーザーや消防自動車などが大集合する「はたらく車フェスティバル

いきいき四国ー9月配信版.txt

2014」も同時開催します。10月26日(日)は、地元の伝統芸能などで賑わう「かりんまつり」が、11月1日(土)は、仮装して楽しいゲームに参加しながら英語が学べる「ハッピーハロウィーン」を開催します。

そのほか、園内のコスモスを眺めながら正しい歩き方が学べる「チャレンジ! 5kmウォーキング」や飛竜池でカヤックやラフトボートの乗り方を体験する「カヤック・ラフト体験会」など体を動かす楽しいイベントも盛りだくさんです。詳しくはホームページをご覧ください。

この秋も、ぜひ、花や自然豊かな国営讃岐まんのう公園『コスモスフェスタ』にお越しください!

- ※1. 季節の花情報や旬のイベントの詳細については、国営讃岐まんのう公園ホームページでご確認ください。(http://www.mannoukouen.go.jp/)
- ※2. イベント期間中の10月5(日)と26日(日)は無料入園日です(但し、いずれの日も駐車料金が別途必要です)。

■親子水難事故防止教室について

【中村河川国道事務所 河川管理課】

平成26年7月27日(日)に、四万十市の赤鉄橋(四万十川橋)上流左岸側の河原で、小学生25人を含む約50人程度の参加で『親子水難事故防止教室』を開催しました。

『親子水難事故防止教室』は渡川水系(四万十川)水難防止連絡協議会(中村河川国道事務所、高知県幡多土木事務所、四万十市、四万十消防署、中村警察署から構成、平成21年11月27日に設立)と『四万十川水中探偵団』(四万十川流域住民ネットワーク)が協力し、水難事故の防止を目的として、啓発活動の一環として実施しています。

『親子水難事故防止教室』は、平成22年に始めてから今年で5回目となります。本イベントは、子供たちに川で遊ぶ“楽しさ”や“怖さ”を体験の中で知ってもらうことで、自分が事故にあった時、溺れている人を見つけるときに、どうしたらよいのかを学ぶこと。父兄の方には、救助の方法や救命の方法を学んでいただくことを目的としています。

内容的には、小学生(3~6年生)を対象とし、箱メガネによる水中生物調査に始まり、シュノーケリング教室、宝探し、着衣水泳、ゴムボート・カヌー体験、カナディアンカヌーを使った『組み立て式飛び込み台』からの飛び込み体験などを実施し、子供達からは大きな歓声が上がっていました。

子供たちの体験コーナー以外にも、中村警察署による発射銃及びロープによる救出方法のデモンストレーションや四万十消防署によるAED等の講習会を実施しました。今年も天候には恵まれましたが、イベント主催者としては、近年の猛暑の中で実施するため、大人も子ども熱中症にならないように水分補給や休憩等の配慮や工夫が必要となっています。

今回のイベントのアウトプットとしては、子供達は川で遊ぶ楽しさと身を守る術を学び、父兄の皆さんはAEDの使い方や人工呼吸、心臓マッサージを体験することで救命方法を身近に感じる事ができたことと思います。

アウトカムとしては、今回のイベントで知ったことや覚えたことで、人の命が水の事故から、少しでも守られ救われることを願っています。今後も、水の事故から子どもたちを守るために、『親子水難事故防止教室』を関係機関と協力して続けていきたいと考えています。

■松山空港「空の日フェスタ」が開催されます

【松山港湾・空港整備事務所】

2014年9月27日(土)、松山空港において「空の日」のイベント、「2014松山空港 空の日フェスタ」が開催されます。空港関係機関や企業等により、愛媛県の都市伝説を実現した「蛇口からポンジューズ」

いきいき四国-9月配信版.txt

を含む多数のイベントが企画されており、松山港湾・空港整備事務所からも松山空港の模型やパネルの展示、模型飛行機による風洞実験装置を第一会場に出展する予定としています。

この機会に、いつもは何気なく利用している空港をご家族やお友達とごゆっくり見学されてはいかがでしょうか。皆様のご来場をお待ちしています。

開催日：平成26年9月27日（土） 10：00～16：00
会場：松山空港ターミナルビル（第一会場）、松山空港事務所（第二会場）
主催：松山空港事務所内 松山空港「空の日」実行委員会
TEL089-972-0319

空の日ネット：<http://www.soranohi.net/>

【主なイベント（予定）】

幼稚園児による鼓笛演奏・演技、吉田公民館による三味線披露、愛媛県内の特産品販売、ポンジュース蛇口、足湯、抽選によるオフィス等の見学、子供制服撮影、歴代CA制服披露、マーシャリング体験、チマチヨコリ撮影、ラジコンプラモデル展示、空港で働く車両（航空会社）の展示、海上保安部ヘリによる展示飛行、バスツアー（5回運行）その他

四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

「いきいき四国通信」に関するご意見等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

<mailto:seibikyoku@skr.mlit.go.jp>

***** 「いきいき四国通信」事務局 *****
「いきいき四国通信」の配信中止・配信先変更のご希望がありましたら、事務局までご連絡頂きますようお願いいたします。

国土交通省 四国地方整備局 企画部
【担当】後藤（内3126）、仙波（内3176）
〒760-8554 高松市サンポート3番33号
電話(087)851-8061/FAX(087)811-8408
<mailto:seibikyoku@skr.mlit.go.jp>